

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成30年2月8日
【四半期会計期間】	第96期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）
【会社名】	株式会社ミクニ
【英訳名】	MIKUNI CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 生田 久貴
【本店の所在の場所】	東京都千代田区外神田六丁目13番11号
【電話番号】	03（3833）0392（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 柴田 恒
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区外神田六丁目13番11号
【電話番号】	03（3833）0392（代表）
【事務連絡者氏名】	経理室長 柴田 恒
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第95期 第3四半期 連結累計期間	第96期 第3四半期 連結累計期間	第95期
会計期間	自平成28年4月1日 至平成28年12月31日	自平成29年4月1日 至平成29年12月31日	自平成28年4月1日 至平成29年3月31日
売上高 (百万円)	68,948	75,754	94,787
経常利益 (百万円)	2,017	2,983	3,469
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	1,794	1,977	2,685
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	638	3,569	2,966
純資産額 (百万円)	26,976	33,212	30,058
総資産額 (百万円)	84,811	90,664	89,181
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	53.38	58.81	79.87
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	30.22	35.60	32.75

回次	第95期 第3四半期 連結会計期間	第96期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年10月1日 至平成28年12月31日	自平成29年10月1日 至平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	30.13	28.82

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高は、消費税等抜きで表示しております。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 当社は、第94期より、「役員報酬BIP信託」を導入しており、当該信託の信託口が保有する当社株式を自己株式として処理しております。これに伴い、1株当たり四半期(当期)純利益金額の算定上、当該株式数を自己株式に含めて「普通株式の期中平均株式数」を算定しております。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当グループ（当社及び当社の関係会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）におけるわが国経済は雇用情勢の着実な改善に加え個人消費が持ち直し、景気は緩やかに回復しました。海外では中国の不動産価格や金融市場の動向に懸念が指摘されていますが、米国と欧州の回復に加えアジア地域でも景気が持ち直しており、世界経済は緩やかな回復が続きました。

このような経営環境のなか当グループにおいては、新興国市場の二輪車需要が下げ止まってきたこともあり、売上高は757億5千4百万円（前年同期比9.9%増）となりました。二輪車用製品の増収に加え生産の効率化によって営業利益率が改善し、営業利益は、29億4千9百万円（前年同期比38.8%増）となりました。関連会社からの受取配当金もあり経常利益は、29億8千3百万円（前年同期比47.9%増）となりました。投資有価証券売却益を特別利益に計上したこともあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億7千7百万円（前年同期比10.2%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[自動車関連品事業]

四輪車・二輪車・汎用エンジン用燃料供給装置類及びエンジン関連機能品類の製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて増加しました。四輪車用製品はインド市場の好調に加え新製品の立ち上がりもあり、増収となりました。二輪車用製品は新興国市場で二輪車需要が下げ止まってきたこと、大型二輪車市場で当社製品の搭載機種が増加したことなどにより増収となりました。加えて、米国を中心に個人消費が増加していることもあり、船外機用製品の生産数量が増加し当事業の営業利益率が上昇しました。この結果、当事業の売上高は、489億6千2百万円（前年同期比15.0%増）となり、営業利益は、26億4千1百万円（前年同期比70.0%増）となりました。

[生活機器関連品事業]

ガス機器用制御機器類及び水制御機器類などの製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて増加しました。国内の住宅着工は横ばいで推移しましたが、中国市場で給湯器向けガス制御弁が好調に推移しました。一方、生産効率の改善ペースがやや鈍化しました。この結果、当事業の売上高は、58億6千3百万円（前年同期比12.4%増）となり、営業利益は、2億1千1百万円（前年同期比9.8%増）となりました。

[航空機部品輸入販売事業]

航空機部品類の売上高は、前年同期に比べて減少しました。航空機産業は長期的な成長が期待される分野ですが、当第3四半期累計期間は量産機種が新規開発品に交代する期に当たり、主力機種の生産減少による影響を受けました。半面、前年同期に比べて為替変動が緩やかで、為替による影響が小さくなりました。この結果、当事業の売上高は、156億8千3百万円（前年同期比1.7%減）となり、営業利益は、1億7千8百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

[その他事業]

芝管理機械等の販売及び車輛用暖房機器類、福祉介護機器等の製造販売を中心とする当事業の売上高は、前年同期に比べて増加しました。芝管理機械等はゴルフカート等の買い替え需要があり、増収となりました。車輛用暖房機器類は排ガス規制が適用されるディーゼル重量車用の需要が一巡し、減収となりました。福祉介護機器等は顧客基盤の拡大に伴い増収となりました。この結果、当事業の売上高は、52億4千5百万円（前年同期比0.8%増）となりましたが、車輛用暖房機器が減収となったこともあり、営業損失は、8千2百万円（前年同期は2億5百万円の営業利益）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、906億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べて14億8千3百万円増加しました。

流動資産は、405億7千6百万円となり、前連結会計年度末に比べて9億5千5百万円減少しました。これは主に、売上債権が3億8千1百万円及び棚卸資産が2億4千7百万円、それぞれ減少したことによるものであります。

固定資産は、500億8千8百万円となり、前連結会計年度末に比べて24億3千8百万円増加しました。これは主に、株価の上昇などにより投資有価証券が16億8千9百万円及び設備投資により有形固定資産が10億2千8百万円、それぞれ増加したことによるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、574億5千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて16億7千1百万円減少しました。これは主に、有利子負債が27億8千2百万円減少したことによるものであります。

純資産は332億1千2百万円となり、前連結会計年度末に比べて31億5千4百万円増加しました。これは主に、四半期純利益を20億4千1百万円計上したことに加え、その他有価証券評価差額金が12億3千万円増加したことによるものであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、38億2千9百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	110,000,000
計	110,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成30年2月8日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	34,049,423	34,049,423	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株です。
計	34,049,423	34,049,423	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	34,049,423	-	2,215	-	1,700

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 183,400	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 33,820,500	338,205	-
単元未満株式	普通株式 45,523	-	-
発行済株式総数	34,049,423	-	-
総株主の議決権	-	338,205	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。

また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

2. 「完全議決権株式(その他)」の欄には、「役員報酬BIP信託」にかかる信託口が保有する当社株式233,500株(議決権の数2,335個)が含まれております。

【自己株式等】

平成29年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ミクニ	東京都千代田区外神田 6-13-11	183,400	-	183,400	0.54
計	-	183,400	-	183,400	0.54

(注) 「役員報酬BIP信託」にかかる信託口が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含まれておりません。

2 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当第3四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人日本橋事務所による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,999	6,751
受取手形及び売掛金	18,508	¹ 17,775
電子記録債権	1,309	¹ 1,660
商品及び製品	6,841	6,323
仕掛品	3,863	4,046
原材料及び貯蔵品	1,532	1,618
その他	3,544	2,465
貸倒引当金	67	66
流動資産合計	41,531	40,576
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,236	9,875
機械装置及び運搬具(純額)	10,106	10,542
工具、器具及び備品(純額)	2,151	2,115
土地	11,888	11,913
建設仮勘定	2,078	3,041
有形固定資産合計	36,460	37,489
無形固定資産		
のれん	207	158
その他	775	894
無形固定資産合計	983	1,053
投資その他の資産	² 10,205	² 11,546
固定資産合計	47,650	50,088
資産合計	89,181	90,664
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	11,812	¹ 12,728
短期借入金	13,819	13,096
1年内返済予定の長期借入金	7,014	6,886
未払法人税等	440	219
賞与引当金	1,391	792
製品保証引当金	204	155
その他	5,088	5,764
流動負債合計	39,771	39,645
固定負債		
長期借入金	10,430	8,497
退職給付に係る負債	3,591	3,552
役員報酬BIP信託引当金	27	27
その他	5,302	5,728
固定負債合計	19,351	17,806
負債合計	59,123	57,452

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,215	2,215
資本剰余金	1,937	1,937
利益剰余金	16,382	18,046
自己株式	186	181
株主資本合計	20,348	22,018
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,813	4,043
繰延ヘッジ損益	1	5
土地再評価差額金	5,273	5,273
為替換算調整勘定	1,261	1,386
退職給付に係る調整累計額	489	446
その他の包括利益累計額合計	8,858	10,261
非支配株主持分	850	932
純資産合計	30,058	33,212
負債純資産合計	89,181	90,664

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	68,948	75,754
売上原価	58,990	64,234
売上総利益	9,957	11,520
販売費及び一般管理費	7,832	8,571
営業利益	2,125	2,949
営業外収益		
受取利息	46	33
受取配当金	81	189
持分法による投資利益	27	0
受取賃貸料	164	156
その他	102	95
営業外収益合計	422	476
営業外費用		
支払利息	263	280
為替差損	121	8
その他	144	152
営業外費用合計	529	441
経常利益	2,017	2,983
特別利益		
固定資産売却益	133	2
投資有価証券売却益	-	193
関係会社株式売却益	-	41
関係会社清算益	-	66
退職給付制度終了益	171	-
受取補償金	594	-
受取保険金	-	56
その他	5	-
特別利益合計	903	360
特別損失		
固定資産除売却損	50	25
火災損失	-	54
その他	12	2
特別損失合計	63	82
税金等調整前四半期純利益	2,858	3,261
法人税等	940	1,220
四半期純利益	1,917	2,041
非支配株主に帰属する四半期純利益	123	63
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,794	1,977

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	1,917	2,041
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	788	1,230
繰延ヘッジ損益	13	4
為替換算調整勘定	3,425	236
退職給付に係る調整額	100	43
持分法適用会社に対する持分相当額	33	13
その他の包括利益合計	2,556	1,528
四半期包括利益	638	3,569
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	398	3,487
非支配株主に係る四半期包括利益	240	82

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

持分法適用の範囲の重要な変更

第1四半期連結会計期間より、ピエルブルグ・ミクニ・ポンプ・テクノロジー株式会社及びピエルブルグ・ミクニ・ポンプ・テクノロジー(上海)有限公司の計2社は重要性が増したため、持分法適用の範囲に含めておりません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、一部の連結子会社は、税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(役員向け株式報酬制度)

当社は、当社の取締役(社外取締役を除く。)及び当社と委任契約を締結している執行役員(以下「取締役等」という。)に信託を通じて自社の株式を交付する取引を行っております。

1 取引の概要

当社は、取締役等を対象に、当社の中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意欲を高めることを目的として、平成27年8月17日に株式報酬制度(以下「本制度」という。)を導入いたしました。

本制度では、役員報酬BIP(Board Incentive Plan)信託(以下「BIP信託」という。)と称される仕組みを採用しております。BIP信託とは、米国の業績連動型株式報酬(Performance Share)制度及び譲渡制限付株式報酬(Restricted Stock)制度を参考にした役員に対するインセンティブ・プランであり、BIP信託が取得した当社株式及び当社株式の換価処分金相当額の金銭を役位や業績目標の達成度等に応じて、原則として取締役等の退任時に交付及び給付するものであります。

なお、信託内にある当社株式については、経営への中立性を確保するため、信託期間中、議決権を行使しないものとしております。

2 信託が保有する自社の株式に関する事項

信託が保有する当社株式の信託における帳簿価額(付随費用の金額を除く。)は、前連結会計年度130百万円、当第3四半期連結会計期間125百万円で、株主資本において自己株式として計上しております。

また、当該株式数は、前連結会計年度244,500株、当第3四半期連結会計期間233,500株であります。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当四半期連結会計期間末日満期手形等の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
受取手形	- 百万円	23百万円
電子記録債権	- 百万円	3百万円
支払手形	- 百万円	291百万円

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
投資その他の資産	205百万円	205百万円

3 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関からの借入金に対し、次のとおり債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
ピエルブルグ・ミクニ・ポンプ・ テクノロジー株式会社	40百万円	45百万円
エバスペヒャー ミクニ クライメットコントロー ル システムズ株式会社	100百万円	100百万円
計	140百万円	145百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
減価償却費	3,134百万円	3,240百万円
のれんの償却額	50百万円	48百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	10	平成28年3月31日	平成28年6月29日
平成28年11月9日 取締役会	普通株式	169	利益剰余金	5	平成28年9月30日	平成28年12月6日

(注) 1. 平成28年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金2百万円が含まれております。

2. 平成28年11月9日取締役会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	237	利益剰余金	7	平成29年3月31日	平成29年6月29日
平成29年11月9日 取締役会	普通株式	169	利益剰余金	5	平成29年9月30日	平成29年12月6日

(注) 1. 平成29年6月28日定時株主総会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

2. 平成29年11月9日取締役会決議による配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」の信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連品	生活機器 関連品	航空機部品 輸入販売	計				
売上高								
外部顧客への売上高	42,573	5,217	15,955	63,746	5,201	68,948	-	68,948
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	42,573	5,217	15,955	63,746	5,201	68,948	-	68,948
セグメント利益 又は損失()	1,553	192	173	1,920	205	2,125	-	2,125

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、芝管理機械等の販売及び車輛用暖房機器類、福祉介護機器等の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	自動車 関連品	生活機器 関連品	航空機部品 輸入販売	計				
売上高								
外部顧客への売上高	48,962	5,863	15,683	70,509	5,245	75,754	-	75,754
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	48,962	5,863	15,683	70,509	5,245	75,754	-	75,754
セグメント利益 又は損失()	2,641	211	178	3,031	82	2,949	-	2,949

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、芝管理機械等の販売及び車輛用暖房機器類、福祉介護機器等の製造販売事業等を含んでおります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	53.38円	58.81円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,794	1,977
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(百万円)	1,794	1,977
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,622	33,628

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 株主資本において自己株式として計上されている信託に残存する自社の株式は、1株当たり四半期純利益金額の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。

1株当たり四半期純利益金額の算定上、控除した当該自己株式の期中平均株式数
前第3四半期連結累計期間 244,500株 当第3四半期連結累計期間 237,680株

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

第96期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)中間配当について、平成29年11月9日開催の取締役会において、平成29年9月30日の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、次の通り中間配当を行うことを決議し、配当を行っております。

配当金の総額 169百万円
1株当たりの金額 5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成29年12月6日

(注) 配当金の総額には、「役員報酬BIP信託」にかかる信託口が保有する当社株式への配当金1百万円が含まれております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年2月8日

株式会社ミクニ
取締役会 御中

監査法人日本橋事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 小倉 明 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 渡邊 均 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ミクニの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ミクニ及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。